

物事が上手く運ばない時、それは全て、魔に殺られてしまうのだと自分は判断しています。空海大師様が申されたように坊主である限り「頭を刺つて欲を刺らず、衣を染めて心を染めず」と、往生の為の欲は深く、名誉・財欲等の欲に溺れず、控えめに小欲知足でありたいと思っています。欲は水深と同じ、深くなるに従い身に危険が迫ります。クワバラ、クワバラ。浅瀬が安全です。

新茶の季節です。第二十号でお話しましたが【采西禅師は「茶は養生の仙薬であり、人の寿命を延ばす妙術を具えたものである」と心の臓にも茶が良いと言われた。しかし茶も摘み採る時機あり。雨の日や曇りの日には摘み採らないし、焙る事無く、蒸す事もしない。こうしてできた御茶を用いればの話です。無養生が健康を損ね、病を引き起こすとされ、又、昔も今も変わらないのが誤診です。禅師は「ひそかに今の世の医術を聞くに薬を飲む事によって、心地(心身)をそこなうようなことをしているが、それは病と薬とが適合していないためである」と言われた。経によれば「肝臓は酸味を好む、肺臓は辛味を好む、心臓は苦味を好む、脾臓は甘味を好む、腎臓は鹹味を好む」と。又、「肝は東・春・魂・眼を示し、肺は西・秋・魄・鼻を示し、心は南・夏・神・舌を示し、脾は中・四季の末・志・口を示し、腎は北・冬・骨髄・耳を示す」。との説明在り。今一度思い出して下さい。

樹木希林さんの言葉をピックアップしてみました。「人として生まれてきた自体計り知れない魅力がある・家族が崩壊しないのは女の粘り強さ・女が台となって始という漢字がある・無駄を出さない生活をする・欲や執着よりも、人として、どう生きるかが大事である・人間としてダメなものを修繕しながら生きている・愚痴をこぼさない・死は借りていたものを、お返しすると考えている」

田村耕太郎氏は著書のなかで「自信のあるときこそ、自信のある人こそ、謙虚にそして危機感を持つて事に対応すべきなのは洋の東西、何事にも言えることだ」。頭がいいことにはそれなりの価値があるが、絶対的な価値ではない。眞の叡智、他社から抜きん出る為の人生最高値は単なる頭の回転はない。記憶力や発想力だけではないのだ。それは相手の気持ちを見抜く力だ。「どんな職業でも、本人が自分を見失う瞬間に坂から転げ落ちていく」と、自分を見つめ磨くということが信仰です。

あるテレビドラマを見ていたら「何をしたか」だけでなく「何の為にしたのか」という事を考えて見る必要があるという場面に出会いました。自分も片手落ちに成らないように気をつけたいものです。又、あるテレビ番組で松岡修造氏が現状に応じて「深呼吸」が必要である。と言われ但し「深を心に変えた心呼吸」ですと。心呼吸をすることに依って、「出来ないことを、出来るように持つてゆく、一つの方法である」と、おっしゃっていました。仏教では「身心脱落」という言葉が在ります。一切の束縛から解き放されることですが松岡修造氏の言われる「心呼吸」と似ているかもしれません。坂本九さんが歌った「上を向いて歩こう」の様に歩きましょう。淡々

令和元年六月一日

善壽界善入院油掛地藏尊